

令和 7（2025）年度

学習院大学大学院 博士前期課程（春期）

人文科学研究科・教育学専攻

入学試験問題

9 : 00～10 : 00 教育学専門Ⅰ（基礎知識）

10 : 20～12 : 20 教育学専門Ⅱ（小論文）

13 : 10～14 : 10 外国語原書読解

※太線わく内は必ず記入してください。

以下の3つの文章のうち、2つを選んで、意味が通じるように和訳しなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

2025 年度 学習院大学大学院 人文科学研究科 春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

志望研究科	人文科学研究科 博士前期課程	志望専攻	教育学専攻	受験番号		カナ	
						氏 名	
試験科目	外国語原書読解(英語) 【試験時間】13:10~14:10	備考	問題用紙 (2) 枚中 (2) 枚目	採点欄			

3.

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

※太線わく内は必ず記入してください。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

※太線わく内は必ず記入してください。

[illegible]

2025 年度 学習院大学大学院 人文科学研究科 春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

志望研究科	人文科学研究科 博士前期課程	志望専攻	教育学専攻	受験番号	カナ	
					氏 名	
試験科目	外国語原書読解(日本語) 【試験時間】13:10~14:10	備考	問題用紙 (2) 枚中 (/) 枚目	採点欄		

1 a から e の言葉の読み方をひらがなで書きなさい。

解答は、解答用紙に a から e の記号を明記して書きなさい。

a 劣悪 b 寡作 c 貧窮 d 軟弱 e 陥没

2 次の文章の内容を 12 行程度で要約しなさい。解答は解答用紙に書きなさい。

とが影響しています。日本では、2018年に政府の「人づくり革命 基本構想」において、産学連携による「リカレント教育の拡充」が明記され、文部科学省の事業をはじめと様々な施策を打ち出しています。一方「リスキリング (Reskilling)」は、2010年代中頃から欧米中心に広まったコンセプトで、ITやAIの進化によって人間の雇用が脅かされるという危機感に端を発しており、DX化の文脈で語られることが多いのはそのためだと考えられます。2020年のダボス会議で「リスキル革命プラットフォーム」の構築が宣言されたことをきっかけに世界的に注目されるようになったとされています。日本では、2022年に岸田首相の所信表明演説にて「5年間で1兆円のリスキリング支援」が表明されたことにより企業を中心に急速に広まりました。リクルートワークス研究所は、「新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に対応するために、必要なスキルを獲得する／させること」と定義しています。

このように、どちらも日本語では「学び直し」とされることがありますが、出自が異なり特徴にも違いがあります。一方、「生涯学習」を含むどのコンセプトも、私たちがよりよい人生を送るために学び続けることや、学びたい時に学びたいことを学べる状況を創ることを目指すという点では共通しています。では、何がそれを妨げているのでしょうか。

「生涯学習」という概念が一言前(1965年、ユネスコが提唱)からあるように、生涯にわたる学習の重要性はこれまでも長らく認識されてきました。にもかかわらず、ここ数年で「リカレント教育」や「リスキリング」がこれほど話題になっているのはなぜでしょうか。まずはそれぞれが生まれた背景を概観したいと思います。

「リカレント (Recurrent) 教育」は、1960~70年代に欧州で生まれた、学校教育を終えた後も「仕事」と「学び」を行き来するというコンセプトです。【LIFE SHIFT】(東洋経済新報社) という書籍で提唱されたように、人生が教育↓勤労↓引退という単線型から、仕事や学び等多様なステージが入り混じるマルチステージ型の時代へと変わったこ

2025 年度 学習院大学大学院 人文科学研究科 春期入学試験

※太線わく内は必ず記入してください。

志望研究科	人文科学研究科 博士前期課程	志望専攻	教育学専攻	受験番号	カナ	
					氏 名	
試験科目	外国語原書読解(日本語) 【試験時間】13:10~14:10	備考	問題用紙 (2) 枚中 (2) 枚目	採点欄		

大人の学びに関する様々な調査結果をみると、残念ながら日本の大人は諸外国と比べて圧倒的に「学んでいない」ということを多くのデータが示しています。国を挙げて「学び」の可能性を広げようとする動きは歓迎すべきですが、政府が方針を出し、制度を整え資金を投下したり、行政や大学・企業等が機会を提供したりさえすれば、人々は学び続けられるのでしょうか。パースル総合研究所の小林祐児氏は、「工場モデル」からの脱却が昨今の学び直しブームを失敗に終わらせないための一つの鍵であるとしています。「工場モデル」とは、必要なスキルを明確化し、それを新たに身に付け、ジョブ（ポスト）とマッチングするという発想のことを指し、このモデルでは「個」を単位とした知識やスキルの獲得に焦点が当たることが一つの問題点とされています。なぜなら、人の学びは社会的な相互作用による営みであることを、学習研究がすでに明らかにしてきているためです。つまり、学びを個人のやる気の問題や自己責任とするのではなく、どのような環境であれば人の学ぶ力が引き出されるのか、コミュニティや組織の仕組み、文化によってどう学びを支えていくことができるのか、という発想で考えなければならぬということです。

このように考えてみると、「リカレント教育・リスキリングの推進」とは、「学び」の捉えそのものを社会全体で見直していくという大きなムーブメントのように感じられます。そしてそれはまさに、学校現場でどのように「主体的・対話的で深い学び」を実現し、子どもたちの生きる力を育んでいくのかということも密接に関わっています。

前述の「工場モデル」が認知科学者鈴木宏昭著『私たちはどう学んでいるのか』創発から見る認知の変化』（筑摩書房、2022）にある近年の大学改革に対する批判を参照したものであることや、伝統的な学校教育が「工場」のメタファーで語られることが多いことから、社会人の学びと社会に出る前の（学校での）学びは同じような問題を抱えているといえそうです。「学び直し」の議論をVUCA時代の生存戦略や経済発展の論点で終始させることなく、豊かな人生・豊かな社会を創っていくために「学び」の捉え自体を変えていくプロセスだとみなし、教育に携わる私たちこそが当事者意識をもって行動を起こすことが求められているのではないのでしょうか。「学び直し」と聞くと「研修・講座の受講」や「大学院進学」などのイメージが強いかもしれませんが、人は本来生まれながらにして学び続ける存在であり、日常生活や仕事などを通じて常に学んで（学び直して）います。そう考えると、日々の学びを意識化して小さな工夫を重ねることも、「学び続ける」社会づくりに向けた一歩なのかもしれません。

※太線わく内は必ず記入してください。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.